



2007～2008年度  
国際ロータリーのテーマ  
RCは分かちあいの心  
2007～2008年度  
ウィルフレッド J. ウィルキンソン

# Weekly Report

創 立：1980年(昭和55年)11月10日  
会 長：岩本 成郎  
幹 事：西本 哲  
クラブ広報委員長：亀井 直人  
例 会 日：毎週木曜日PM12:30～  
会 場：ビルトシ名古屋  
事 務 局：460-0008  
名古屋市中区栄1丁目3-3  
ビルトシ名古屋910号  
T E L：052-211-3803  
F A X：052-211-2623  
M A I L：2760nagoya@mizuho-rc.jp  
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1340回例会

2007年10月25日(木) 曇 第16回

司 会：高木勝会場委員  
齊 唱：「日も風も星も」

### 会長挨拶

岩本成郎会長

皆さんこんにちは。

#### 一晩秋一

10月も終わりが近づき今日この頃、朝夕は肌寒さの日々、街中の街路樹も色づいてきました。晩秋もまた色彩の豊かな季節だと思わせ、しばし眼福を与えてくれます。

秋の風を色なき風という季語があります。がこれは中国五行思想で秋に白を配し秋風を素風といったのを歌語にしたと伝えられこれは無色透明の中に秋風の寂寥をうたった『講談社「日本大歳時記」』にあります。「吹き来れば身にもしみける秋風を色なきものと思ひけるかな」日本の歌人も秋風をこのように表し身にしみてくる秋風の寂しさが無色で透明であると詠んでいます。

そしてやがて落葉の季節となり舗道の風が吹きちらす、これも寂しくなってくる。けれど最後の光景はこう変わる。前方に一人の少女がやってきた。靴先ではげしく歌いながら新聞紙に包んだ赤いダリアを持って、透明な秋の中でダリアの赤がひときわ鮮やかに浮き上がる。滅びを感じる詩人の憂愁を吹き払うかにも映る。

厳しくなっていく季節でも軽やかに弾む命はあるのだろう。寂寥な色なき秋風は暗い色になりやすいが少し気持ちを変えて歩けば赤いダリアとも出会って明るい風になることでしょう。

昨日は(10月24日)熱田神宮会館で社会奉仕例会、南RC、東南RCの合同例会に参加。例会終了後4RC(南RC、東南RC、瑞穂RC、名南RC)による熱田神宮へのAED目録贈呈式が行われ4RC会長、幹事、社会奉仕委員長起立の中、南RC会長が代表で贈呈、小串宮司様より各クラブに感謝状が贈られました。14時～17時の間AED講習会が開かれ、マスコミとの対応等もあり盛大に行われました。

### 出席報告

梅田朋嗣出席委員

会員72名 出席39名 (出席計算人数50名)

出席率70.0% 10月11日は補填により 88%

### 幹事報告

西本 哲幹事

- ・本日例会終了後、13時35分より第2回推薦小委員会を9F「つるの間」にて行います。出席予定者は宜しくお願い致します。
- ・次週11月1日(木)は第5回理事会です。例会後13時35分より6F「けやきの間」にて行います。同じく11月1日は例会前11時より第2回長期ビジョン委員会を行います。6F「けやきの間」です。
- ・本年12月末迄休会届の出していました宇佐美貞夫さんが11月より例会出席できる事になりましたとの連絡を頂きましたので来月より出席されます。声掛けの方よろしく願います。

### 臨時例会変更のお知らせ

名古屋南				11/28(水)※
名古屋北			11/23(金)※	
名古屋東		11/12(月)		
名古屋守山			11/21(水)	
名古屋東南			11/21(水)	11/28(水)
名古屋名東	11/6(火)		11/20(火)	
名古屋千種	11/6(火)※	11/13(火)※		
名古屋大須		11/15(木)		
名古屋栄			11/19(月)◆	
名古屋昭和		11/12(月)		
名古屋東山	11/8(木)			
名古屋空港		11/12(月)		
名古屋清須			11/20(火)	
名古屋錦		11/13(火)※		
名古屋葵				11/29(木)※
名古屋城北				11/27(火)

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

◆はサイン受付時間が17:00～18:00となります。

◇はサイン受付が17:30～18:30となります。

### ニコボックス

梅田朋嗣ニコボックス委員

- ・10月21日は誕生日でした。誕生日が年々うれしくなくなってきました。 **西本 哲さん**
- ・10月29日は結婚記念日です。小串さん、貴重な経験をさせて頂き有難うございました。 **近藤 雄亮さん**
- ・10月23日は結婚記念30回でした。本日卓話をやります。よろしく。 **馬場 将嘉さん**
- ・9月は妻の誕生日です。また敬老のお祝いありがとうございます。職業奉仕委員として職場例会を体調不良で欠席して申し訳ありません。 **中川啓二朗さん**
- ・久しぶりです。友人の件で小串さんに御世話になりました。9月は誕生月でした。 **八木沢幹夫さん**
- ・先週の職場例会には多数の参加ありがとうございました。又、高村さんには大変お世話になりました。 **高木 勝さん**
- ・高村さん、職場例会では美味なお土産まで頂き有難うございました。 **守谷 巖樹さん**

### 熱田神宮へAEDを寄贈

平成19年10月24日(水)熱田神宮へ4RC(名古屋南・名古屋東南・名古屋瑞穂・名古屋名南)から寄付したAEDの贈呈式が行われ、4RC会長から熱田神宮の小串宮司に目録が手渡され、神宮から感謝状が送られました。当クラブからは岩本会長以下7名が出席し、盛大に行われました。

その後、岩本会長、松井会長エレクト、田口副幹事、亀井クラブ広報委員長、田中社会奉仕委員長の5名にて応急手当の講習とAED取り扱いについて3時間に及び受講しました。受講者には「普通救命講習修了書」が名古屋市消防署長名で手渡され、上記5名は救急技能を有することを認定されました。





## 卓話

馬場 将嘉さん

## 米山奨学事業



1952年に日本ロータリーの父の米山梅吉氏の遺徳を記念して東京RCが米山基金の構想を立て、日本で学ぶ外国人留学生を支援する国際奨学生事業を始めました。日本全国のRC共同事業として発展し、1967年に文部省(文部科学省)の認可を受けて財団法人米山記念奨学会が設立されました。50年以上の歴史を持ち、世界に類を見ない日本ロータリー独自の多くの地区の合同奉仕活動になっています。

年間の奨学生採用数はおおよそ800人、事業費は2005年度の決算で14.2億円となっており、国内では民間最大規模の奨学事業になっています。これまでに支援してきた奨学生の数は2006年4月現在の累計で13,322人です。その出身国は世界106の国と地域に及びます。奨学金による経済援助だけでなく、世話クラブ、カウンセラー制度を設け、奨学生を精神面でも支えています。奨学生一人ひとりに地域のRCから世話クラブが選ばれさらにその会員の中心からカウンセラーがついて奨学生との交流を深め、彼らの日本での生活が心豊かなものになるように配慮しています。奨学生の中では通常の学生生活では知り得ない日本社会の体験ができたり、ロータリー奉仕の心に触れて人間的に成長できたりと、奨学生にとってはかけがえのない経験になるとともに支援するロータリアンにとっても米山奨学事業の意義を実感し、理解を深める機会となっております。

今後日本の生きる道は平和しかない訳で、それをアジアに、世界に理解してもらうためには1人でも多くの留学生を迎え入れ、平和をまとめる日本人との出会いを通じて互いに信頼関係を築くことが日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないでしょうか。

事業創設の背景には当時のロータリアンのこのような思いがありました。それから50年以上の歳月が流れましたが、民間外交として世界に平和の種をまくという米山奨学事業の使命は一貫して変わっていません。むしろ今日の世界情勢と日本の置かれている状況を考えるとこの使命の重要性はますます増しているのではないのでしょうか。留学生の支援は未来に向かって平和の架け橋となる尊い奉仕だと思えます。

寄付金がどのように使われているかですが、財団法人米山奨学会の財源は全国のロータリアンから寄付金によって成り立っています。2006から2007年度の寄付金収入の実績は14億5,200万円です。頂いた寄付金は全て奨学金及び地区の世話クラブの募金・推進費などに当てられています。その他の管理費用などの支出については資産の運用収入で賄っています。米山奨学会では財務状況の透明性を確保するためにHP等で広く公開しています。

2006から2007年度の寄付金実績は前年度比で-0.8%の約1,200万円の減少となりましたが、1人当たりの平均寄付額は前

年を上回っています。全国の会員数が1,800人減った中で予算額14億5,000万円を達成した意義は非常に大きいと思われるます。2006年7月から2007年6月までの寄付金納入実績はこの2760当地区は7,217万4,000円、累計で21億119万2,000円、個人平均で13,914円です。今年度2760地区では34名の奨学生を受け入れており、累計では561名です。そして名古屋瑞穂RCでは2006年7月から2007年6月まで前期は37万6,000円、累計で4,472万5,000円を出して頂いています。これは1人当たりの平均金額が5,222円です。今現在上期1,500円、下期1,500円、年間3,000円を米山奨学会へ寄付をして頂いています。全国のロータリアンから各クラブで決定した金額×会員数の金額を半期に一度納入される普通寄付金と、個人・法人・クラブからの任意の寄付である特別寄付金があります。特別寄付金は金額に制限はなく、いくら出して頂いても結構です。特に米山奨学の委員会では何とか皆さまにご理解を頂いて特別寄付金をお願いしたいです。米山奨学会は特定公益増進法人に認定されていますので、特別寄付金には所得税・法人税・相続税の寄付金控除が受けられます。平成19年度税制改正でその適用上限額が年間所得の30%から40%に拡充されました。

米山奨学事業は民間最大の支援規模ですが、すごいのはその財源が10万人の会員の個人の寄付から成り立っているということです。企業の基金でもなく、特定個人の資産でもなく、1人1人の善意からの寄付金で毎年14億円も集められる奨学財団は他にはありません。そして世話クラブ・カウンセラー制度があり、寄付者のすぐ近くに学生がいて、互いに交流を図っています。そのように寄付者がサポートする奨学事業はとても珍しいです。

ロータリーの米山奨学の歩みですが、1952年に東京RCが奨学事業の構想を立案して、1953年に米山基金の募金を始めました。1954年に米山奨学生第一号のソム・チャドさんがタイより来日されました。1957年に全国のRCの合同事業としてロータリー米山奨学委員会が結成され全国組織となりました。1958年には新組織初の奨学生8名が採用されました。1959年に世話クラブ制度が設置され、1960年に「ロータリー米山記念奨学会」と名前が改称されました。1967年には文部省から財団法人の許可を得て、財団法人ロータリー米山奨学記念学会が設立されました。1971年にカウンセラー制度が設置され2001年に日本政府から留学生交流功労団体ということで表彰されました。2003年第一回米山奨学会学友セミナーが開催されました。このように米山奨学を通じて、東京大学の大学院の米山留学生だった方が韓国の大使になり、日韓ワールドカップの合同開催時に大変尽力されたそうです。スリランカ出身の米山奨学の方も東北大学大学院を出て帰国後警察に入り、警察庁長官になった時に、暴動が起き、在留邦人の保護のために日本とスリランカの警察協力に大変尽力されたそうです。他にも米山奨学を出て、日本の米山梅吉になりたいという方もお見えになります。

いずれにしても米山奨学与ロータリーの結びつきは、カウンセラー制度等を通じて、人と人とのコミュニケーションや日本人の文化や考え方をしっかりと理解していただけると、これほどいいものは他にないと思います。始め東京で米山基金が発足した理由は第二次世界大戦で東南アジアに大変迷惑をかけたことがきっかけで、東南アジアを中心に奨学生を受け入れようというのが発端のようです。初め国際ロータリーでは米山奨学について認めていなかったようですが、2000年以降は非常に素晴らしいと認知されるようになりました。

## 今週卓話

11月1日(木)

卓話講師：2007～2008年度RI第2760地区R財団委員長  
深谷友尋さん

テ — マ：「ロータリー財団の役割」

## 次週卓話

11月8日(木)

卓話講師：2007～2008年度RI第2760地区国際奉仕委員  
黒田勝基さん

テ — マ：「第2760地区青少年交換活動について」